

鳥飼地域の教育環境についての意見交換会（項目毎）10/21

項目等		意見
小規模校の適正化について	賛成意見	・ 小規模校では子どもたちの競争心が欠けてしまう。 ・ 人間関係が固定されてしまうため、ヒエラルキーが一度形成されると、なかなか変わりにくい。 ・ クラス替えがないことで、人間関係形成に失敗した場合のリセットができてにくい。 ・ 小規模校では、教員が児童の人間関係に非常に気を配る必要があり、大変だと聞いている。 ・ 小規模校では教員の目が行き届き過ぎることで、子どもが萎縮し、のびのびと活動しにくくなる側面もある。 ・ 児童数は多い方がよい。できるだけたくさんの人と関わることが大切。 ・ 小規模校が本当にきめ細かな指導ができていのであれば、鳥飼小、鳥飼東小の学力テストの点数が高いはず。児童数によって教育の質は変わらない。 ・ これからの子どものことを考えると、対策を取って前に進めていくことが大切。 ・ まちづくりを考える上で、学校の在り方を変えることは明るい材料にしていかなければならない。 ・ 仮に統廃合を行ったとしても、跡地の活用次第では地域住民にとって、決して悪い結果にはならない。
	反対意見	・ 民生委員の立場からすると、一人一人の顔をよく見ることができると、鳥飼東小は小規模校のままでも良いと思う。 ・ わくわく広場等の際は一人一人の性格までよく把握でき、きめ細かな指導を行うことができる。 ・ 学力向上等で学校の魅力をもっと高めていくと、興味を持った人が移住してくる可能性もある。 ・ 小学校区ごとに自治会が分かれているため、仮に統合となった場合、地域コミュニティーの在り方を変える必要がある。 ・ 小規模校のメリットをしっかりと活かしきれるのであれば、無理して適正化を図る必要はない。 ・ 地域から子どもがいなくなることは寂しいため、鳥飼東小学校は残してほしい。 ・ 仮に統合を行った場合、2校の教員や保護者のルールや役割等の摺合せが難しいと思うため、適正化には反対。 ・ 鳥飼東小校区は工場や倉庫が多いので、学校がなくなると移住者は極端に減って更なる過疎化が進むと思われる。 ・ 鳥飼東小校区の住民を繋ぎ止めている最後の砦が学校である。 ・ 鳥飼まちづくりグランドデザインの取組によっては、5年後10年後に人口が増える可能性がある。まちづくりに関して先のプランが見えていれば、デメリットの多い小規模校でも、5年程度であれば我慢して通ってもらえるのではないかと。
通学距離について		・ 大通りを挟むことになる場合は、スクールバス等の何らかの対策が必要。 ・ 学童保育が終了する時間は辺りが暗くなっているため、長い距離を歩かせることは危険に感じる。
その他		・ 鳥飼地域は準工業地域が多いため、生活していくには魅力に欠ける。転入者が少ない。 ・ まちづくりにおいて、学校の在り方は非常に重要なファクター。鳥飼まちづくりグランドデザインとの連動を考える必要がある。 ・ このような会にもっと多くの人が参加して、議論を活性化させる必要がある。 ・ 鳥飼東小校区は塾がない。大学生ボランティアの個別指導のような取組を行うと、まちの魅力が増えるのでは。 ・ 昨今、共働き世帯の孤独に慣れた子と、親に十分な世話を受けている子で二極化していてコミュニケーションが円滑に進みにくいと感じたことがある。 ・ 鳥飼北小では、地域の方が学校の教室の中にまで入ってサポートしたことがある。学校から要請があれば、地域住民は協力できる。 ・ 規模に関わらず、子どもと教員の関係性が大切。